

「五福堂新潟村歌」

作詞・作曲..松村義人

腕をふるうつて草刈る鎌に
伸びる祖国の光がこもる
大和桜にあの撫子に
蘭の花咲く大満洲の
広い沃土を耕せ拓け。

手綱とる手に拓土の肩に
伸びる皇國(みくに)の興廃かけて
雪の新潟故郷(ときよう)をあとに
神に誓つて国策線に
踊る我等の使命は重い。

腕をふるうつて命をかけて
伸ばせ我家を部落を村を
村の栄えは皇國(みくに)の繁え(さかえ)
五族協和の満州の栄え
永久に繁榮(さかえよ)我五福堂

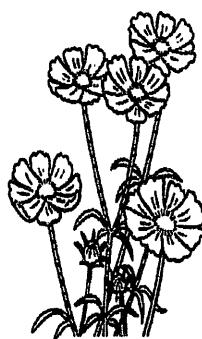
「五福堂新潟村音頭」

作詞・作曲..松村義人

雪のふるふとあの新潟の
人情深さにこの満州を
花を咲かせて実らせましょ。

せまい内地に夢にもないが
煙ひろびり一うね一里
ほんにのびのび暮しましよう。

何が寒から雪国章り
ペチカ温穴(おとせん)じたつもかけて
櫛(そり)で行きましょり
飛ばせましょり。
お国自慢の新潟美人
おかげ三階節あの盆踊り
わあさ輪になれ踊りましょり。



《五福堂開拓団 昭和12年入植 ソ連国境北安

◆ 団長：堀 忠雄

1910年(明治43～平成15)2003年。
山形県酒田市生まれ。実家は名家、父熊太郎
は県議会議員、信頼あつかった。

1930年東大農学部合格。農政学者：加藤
完治の指導を受け、「農業こそ国の基い、農
業なくして國の栄はない」の信念を持つ。

1934(昭和9年)渡満。農業訓練所の校
長に(25歳)。「満人」の師弟と寝食を共に
する中で満人を理解する。大匪賊：趙高志に
「日本人は殺せ、ただし、堀所長は殺すな」と、
いうほどの信頼を勝ち得ていた。

◆ 五福堂開拓団(全員帰国した) 1946年帰国 未墾の土地に入植。既墾地は現地人に耕作を 認め、現地人と良好な関係を築く。

「唄う村にしよう、歌う村を創ろう、踊る
拓土と共に人生の歓喜を配ち合おう。その中
から新しい歴史を軌(か)き続けてゆきたい」
と。開拓団は、現地人に小作料を払い既墾地
の取上げはしなかった。

敗戦時、「断固生き抜くべし」の方針で、
開拓団を守り抜いた堀団長。開拓団を去ると
きは、現地人に見送りされた、という。